

平成22年度 決算説明書／事務事業評価シート

部局名	産業経済部
課室名	農林整備課

予算	款	項	目	決算書	
	6	4	5	170	頁

目 名	林道整備事業費
-----	---------

事務事業名称	林道整備事業
--------	--------

1. 概要

目的	林業の生産基盤となる林道の整備	対象	受益者
事業概要	<p>○県営等林道整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が実施する三国灰立線林道整備事業の負担金 ・大規模林道受益者組合負担補助金・・・緑資源幹線林道宇目小国線(三重・清川・緒方町)受益者組合の負担に対する補助金 <p>○管理林道整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境保全整備事業(繰越)・・・栗ヶ畑炎線舗装工事 L=2054.4m W=4.0m(舗装工) ・森林環境保全整備事業(繰越)・・・烏帽子神角線舗装工事 L=3402.5m W=4.0m(舗装工) ・林道積算システム使用料 ・林道三国灰立線開設推進協議会、林道三宅山線開設推進協議会の負担金 		

臨/経	事業名	事業内容(主な経費等)		予算現額(千円)	決算額(千円)	財源内訳				評価
						国・県支出金	市債	その他	一般	
臨時	県営等林道整備事業	事業負担金 1件 事業補助金 1件	負担金補助 及び交付金	29,406	27,931				27,931	3
臨時	管理林道整備事業	舗装工事 2件 協議会負担金2件	工事請負費	98,187	90,368	46,648	34,400		9,320	3
計				127,593	118,299	46,648	34,400	0	37,251	

2. 指標設定

成果指標	指標名	林道整備		H27	指標の設定理由				
	数値	—			総合計画/後期基本計画において、基本施策(4-1-2)目標達成のために重要な施策となっている				
活動指標	指標	a	県営森林基幹林道整備事業	b	森林環境保全整備事業	c		d	
	数値	目標	32.115億円	目標	1.129億円	目標		目標	

3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名	単位	H20	H21	H22	活動指標名	単位	H20	H21	H22
林道整備		—	—	—	a	億円	28.99 億円	29.71 億円	31.63 億円
							90.3 %	92.5 %	98.5 %
					b	億円	—	0.29 億円	1.12 億円
							25.6 %	100.0 %	
					c				
					d				

4. 課題と対応

課題
計画路線については、ほぼ事業が完了するため新規路線の事業計画の策定が必要である
対応(改善点等)
国・県の補助事業による林道整備(舗装)事業の検討

5. 事業費・・・H20～H22(決算額)、H23(予算現額)

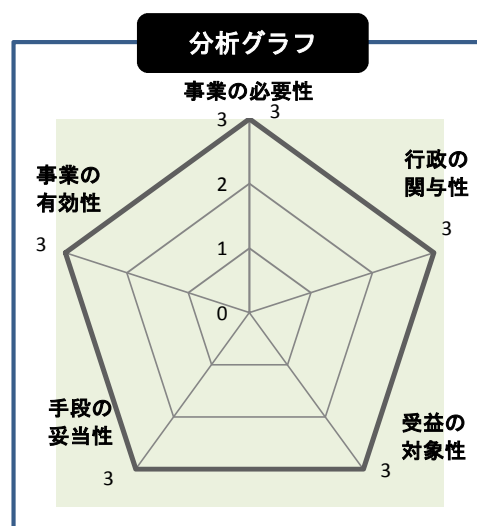
決算額(千円)		H20	H21	H22	H23
		61,565	77,407	118,299	22,000
うち経常経費		654	654		660
財源内訳	国費				
	県費	5,950	25,122	46,648	2,000
	市債	37,000	36,200	34,400	6,600
	その他				
	一般財源	18,615	16,085	37,251	13,400
うち経常		654	654		660
事業費に係る人件費		1,698	1,707	1,752	1,290

6. H24年度予算の方向性

方向性
減額
理由
総合計画での計画路線の整備は終了したが、未舗装箇所の整備、新規路線の開設等必要な箇所について、次年度以降も継続して林道の整備を実施する

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 林業生産基盤の整備は、椎茸生産量、品質日本一の大分県特に本市にとって必要な事業である
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 広域的に整備される林道は、市が事業主体である
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 整備された林道は、林業者だけでなく多くの通行者が使用するため公共性が高い道路である
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 受益者が事業内容を理解し、地域全体の同意があつて事業実施となるため、複数回の説明会が必要となる
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 林産物の安定した搬出入が可能となり経営基盤の強化が図られると判断する



8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容
継続	実施個所や効果など事業の精査検討を行うこと